平 成 28 年 度 事 業 報 告

理 事 長　　田中 一雄

●「明日への資産」としての JIDA 活動

JIDA は長い歴史の歩みの中で、その時々に社会の要請に応え存在価値を発揮し続けてきた。そして今、デザインの価値が大きく拡大を続ける時代にあって、JIDA は社会の為、そして会員の為に活動を続けている。今日の社会状況は、ソーシャルイシューが大きなテーマとなり、デザインの「創造性」や「問題解決力」に大きな期待が寄せられている時代とも言える。JIDA はこのような中、センター活動の各委員会においては「日本の JIDA」としてインダストリアルデザン界全体を見据えて活動している。一方、各地域のエリア及びブロック活動においては、職能団体として「地域ネットワーク」に根差した活動を続けて来た。こうした両面性は、公益社団法人としての価値と同時に、職能性に根差した共益的な価値とも言える。勿論、実態的にはこの二つの価値が、相互に入り混じりながら活動しているが、常に協会活動を客観化しつつ行動することが必要ではないかと考える。

平成 28 年度においても、このような多様な JIDA の活動が、社会と企業と会員の「明日への資産」となったことと確信している。以下に、各委員会とエリアの活動概要を振り返り、今後の活動の糧としたいと思う。

・内務委員会

総務部会においては、昨年に引き続き協会運営上の課題対策が積極的に検討され、各種の規程・規約の見直しなどが進められた。特に本年は、協会の財政基盤安定のためのシステムづくりという難題に取り組み、受託事業において新たな展開へと踏み出すことが出来たことは大きな成果である。これは「公益社団法人」の定義と解釈に係る問題でもあり、今後の協会活動に光を見出すものとなった。

・広報委員会

情報委員会においては、JIDA の存在感強化策として実施してきたアニュアルレポートの発刊を行うとともに、Web サイト及び Web マガジンの充実化とその運営、公式 Facebook 等を通じた広報活動を行った。また、紙媒体としての Face Letter の発行により、会員の顔の見える関係づくりと情報共有を進めた。今後は、デジタル環境の更なる充実を進めていく。

・渉外委員会

本年も、多様な渉外交流活動が活発に行われた。本年の大きな特徴としては、中国の Design Intelligence Award (DIA) への協賛を開始し、海外連携を拡大させたことである。これは、会員の参加機会の拡大とともに、今後が期待される事業となった。また日台韓のインダストリアルデザイナー団体の連携による国際ワークショップ (ADA) を台中で開催し成功裏に終了した。その他、好評の企業のお宝拝見シリーズとして、島津製作所及びマツダデザインセンターが実施され、実り多い年となった。

・ビジョン委員会

本年６回目となる「デザイン思考フォーラム」は、「デザイン思考の未来」をもってこのテーマの最終回とし、デザイン思考を巡る議論の節目とした。また、新たな取り組みとして「インダストリアルデザイン円卓会議」を企画した。理事が中心となり、JIDA の現状、ID の定義、これからの JIDA について、会員を対象とした公開討論会を開催した。懸案の「学生賞アウォード」については、継続検討となった。

・職能委員会

知財問題を主題とした活動を中心に以下の活動を行った。弁理士会との共同事業による知財に関する無料相談の実施・意匠権、商標権など産業財産権に関する会員向け相談サービス・D-8 創作証の運用。その他、弁理士会との共同研究やデザインプロテクトホットラインの運営などを行った。

・スタンダード委員会

過年度に引き続き、セミナー部会では、各種素材に関する勉強会を３回実施するとともに、プロダクトデザインセミナーを開催し充実した内容となった。また、サンプル部会では、スタンダードサンプルやキッズデザインツールなどの販売を実施したが、残念ながらやや低調に終わった。本年の特徴としては、キッズデザイン部会において、産総研と消防庁との共同研究活動を実施し「ミニトマトカッターと安全耳かき」を最終モデルまで完成させ、成果を残すことが出来た。

・デザインミュージアム委員会

ミュージアムセレクション事業においては、本年も充実した活動を展開し、選定品の質・量ともに着実な向上となった。ゴールドセレクション賞も３年目に入り定着を見せた。また、セミナーの実施や、信州新町での事業展開を本年も行い、地元との交流が促進された。香港 M＋との契約に基づく歴史的プロダクト収集事業は、Phase2 を持って終了した。

・教育委員会

これまでPD検定及び出版事業を中心に活動が行われていたが、出版事業は一定の作業も終わり、次のステップへと進む時期となった。公益社団法人JIDAとして、デザイン教育に対して発信することの責任は重く、今後の活動のあり方の再検討を行った。現在の教育委員会メンバーは、検定事業を中心に集まったことから、委員会としての目的が異なるため、今後教育委員会は再編の方向で検討している。

・東エリア

最大規模のエリアとしてセンター活動とも連携し、多様なイベント・セミナー運営など活発な活動を行っている。特に、NextEcoDesignとなったエコデザイン展活動や、ギフトショーへの出展は毎年高い成果を上げている。また、継続してきたインハウス女性の会も賛助会員から高い評価を受けている。

・中エリア

本年は、中部ブロック「40周年記念事業」を主体に業財務管理に重点をおいて取組んだ。「40周年記念事業」では、フォーラムの開催、メンバーの記念展示、記念誌の発行などを行い実りあるものとなった。また昨年に引き続き、セミナー、ワークショップ、交流会を開催するとともに、デザイン大学卒業制作展を訪問し表彰活動を行った。その他、企業訪問において北陸ブロックで盛り上がりを見せたことは喜ばしいことであった。

・西エリア

関西ブロックでは、センター委員会と同様に、総務・広報・ミュージアム・スタンダード・教育・職能など委員会を中心に、数多くのセミナー、ワークショップ、研究会、交流会、見学会などが開催された。また、サロンやフォーラム活動においてはWorld Industrial Design Day Osakaの活動が3回目となり定着をみせた。西日本ブロックでは、対象地域が広範囲に亘る中、引き続き積極的な交流活動を展開した。

このような多様な活動を通じJIDAは、インダストリアルデザインの職能を基盤に「ビジョン発信、ネットワーキング、職能支援、人材育成、社会貢献」などの活動を続けている。今後も会員と社会に必要とされるJIDAを強化推進し、より力強いものとしていきたいと考える。